

# 今も忘れない あの頃の君は...

母校のキャンパスで青春を過ごした卒業生。時代の流れに翻弄される中で、時には厳しく時には甘酸っぱい、それぞれのドラマがあったはず。今回の特集では卒業生の方々にその思い出を一部ご披露頂き、伝統ある母校の歴史を別の側面から眺められたらと企画しました。それだけに、ここに記載された記事は卒業生の心の歴史であると思うのです。

## 男子と共にお城に通う

昭和24年8月末、私が二女高1年生の時に一高と合併しました。しかし、二女高は「朝日高校中山下校舎」と名称を変えただけで、統合は行われませんでした。そして昭和25年4月になってようやく実質的に共学になり、私は岡山城内本丸（内山下校舎）に通うようになりました。生徒の多くは徒歩で通学し、お堀を越えて石段を登って登校していました。城内で勉強をするというのはとても特別で楽しかったのを思い出します。当時は普通科のほか家庭科もあり、普通科は文系と理系に分かれていました。

城内にはバレーボールコートやテニスコートもあり、私は陸上部とテニス部、卓球部に所属しました。制服は二女の制服のままでした。お昼の休憩時間には、お堀に飛び込んで泳いだりする男子生徒や、当時無料だった後楽園まで歩いて遊びに行ったりしていた生徒もいました。三年生になって六高跡地の国富校舎（現在の朝日高校）に移転し卒業しました。

（昭和27年卒 桔梗八枝子 聞き取り：梶野竜二）



50年ぶりに会う初対面のような友への自己紹介に困った。とっさに出たのが「フォークダンスに出てましたか？」すると「出てました」と返ってきたので「もしかしたら手を取り合い肩組んだことあるかもしれませんね」と話の糸口がつかめた。

フォークダンス、していてよかった。

（昭和40年卒 黒岩基之子）



## フィルムに焼き込んだ思い出

ガキの頃からカメラ小僧で、中学・高校は当然写真部。肖像権も個人情報もうるさくない時代、天下御免の腕章付けて、超望遠で獲物を探し、至近距離から怒涛の連写。今だから言うが、狙うは当然女の子。男を撮るのは偽装工作と照れ隠し。それでもみんな良い笑顔を見せてくれました。ここに載せた写真は文化祭のときに留学生のポーラさんとふざけて撮ったものです。

彼女たちも今やアラカン。子供や孫もいるでしょう。若き日のお婆ちゃんの姿、見せてあげたいものです。

（昭和51年卒 山原 信）



## 昼休みのフォークダンス

昭和37年当時の朝日高、昼休みになると大音量で音楽が流れ出す。オクラホマミキサーかマイム・マイムの調べ。レクレーション委員のクラスメートたちを運動場へといざなう最大業務が始まる。

入学して最初にびっくりしたのがこの行事。翌年に大流行した「高校三年生」の歌詞「フォークダンスの手をとれば、甘く匂うよ、黒髪が〜」の雰囲気とは違う。何しろ男女比2:1、女子の列の1/3は男子である。輪は、あの運動場いっぱい広がっていた。